

あけまして
おめでとございます

当会は今年、活動開始から13年目を迎えました。人間なら中学生になる年齢です。赤ん坊が中学生になれば、その成長は目覚ましいものがありますが、自然の13年は、ほとんど目に見える変化はありません。

しかし、この山で活動する人たち、そして山を訪れる人たちにはかなり変化がありました。会員数は新入会員が年々増え、50数人になりました。また初めのころは、小学校の子供たちなどが遊びを中心として来ていましたが、今では多くの小学校が正規の授業としてなな山を利用しています。昨年は新たに帝京大学付属小学校も参加しました。そして最近、市や他団体主催のイベントでも度々なな山が利用されています。今年も引き続き、なな山の自然の楽しさを多くの方々に満喫して頂けたらと思います。

今年の新たな目標としては、多摩地区で減少しているシノダケの育成に取り組みたいと思っています。シノダケの育成についての研究文献や、専門家が発表したという例を見たことがありません。おそらく初めての試みだろうと思いますが、

試行錯誤をしながらも何とか、なな山のシノダケの群落を育成し維持していきたいと思っています。

今年も、事故、怪我のない楽しい一年を過ごせますようお願いしております。みなさまの暖かいご支援とご理解をお願いして、ご挨拶とさせていただきます。

2016年1月 なな山緑地の会会長 高木直樹



めかい、削り花制作:相田幸一

市民環境会議主催の環境学習セミナー開かる

去る11月7日(土)に多摩市民環境会議主催の環境学習セミナーが当なな山緑地で開かれた(当地のフィールドワークは2回目)。参加者は会の一般応募者24名、佐々木代表、多摩市環境政策課スタッフ、及び我々側は講師の相田さんと応援者4名である。

市民環境会議は、市の環境保全のために会員と市民・事業者・行政と連携して活動を実践していく会である。今回のセミナーはその活動の一環として行われたものである。

まず、三つの山の自然観察から始まった。落葉樹林や常緑樹林の山分け、アズマネザサ群落またホダギを利用したシイタケ・ナメコの栽培などなど、相田さんの名解説とともに山巡りをした。また、相田さんの山と物質循環の話、生

物多様性の重要さなどの話、さらに当緑地は自然環境が揃った非常に良い環境にあるとの話は印象的であった。

参加者からは「当緑地はワンダーランド」との感想も聞かれた。参加者の中から一緒に活動したいという方が居られれば望外の喜びである。(出口)



笹刈り体験

「なな山で遊ぼう！ 2015」開催 多摩第二小学校 おやじの会 千田 謙一



空中ブランコ

今年も多摩第二小学校の児童が集う「なな山で遊ぼう！ 2015」を楽しく開催する事ができました。開催日の12月6日(日)はお天気にも恵まれ、二小の児童が110名、幼児11名、大人47名(保護者+二小の先生+おやじの会メンバー)の総勢168人が参加し、過去最多の人数が紅葉も映える里山に帰る日となりました。なな山では高木会長から、ご挨拶と諸注意を頂いた後、子供たちはそれぞれの場で自由に遊びます。例年、幾つかの手作りアトラクションが用意されており、高い木の枝から吊るした空中ブランコとターザンロープ、これは少し急な下り斜面に作っているの、足を離すと地面から大きく離れて空中に放り出されるような感じになります。とてもスリリングなので常に行列ができます。また斜面を滑降り、最後は落ち葉のプールに突っ込んでいくソリ遊び、落ち葉プールに投げ出された後は緑地の会の方々から落ち葉かけのおまけも付いています。子供たちは必ず笑顔で、「もう1回！」となります。他にも、はしごを使った高い木登り、カブト虫の幼虫取り、木を切って車やアクセサリ等を作る木工作品、木の枝を使った弓矢、おやじの会からは炭火焼きでのバウムクーヘン作りなど、自然の中で自然のものを使って楽しく遊ぶ時間を過ごしました。

私が山の中を見て回ると、ターザンロープ、空中ブランコ、ソリ遊びでは、子供たちがこれ以上ないキラキラとした笑顔と楽しい声をあげています。心の底から楽しんでいる笑顔だな〜と見ている自分の顔もほころんでしまいます。木工遊びの方を覗いてみると、こちらはノコギリで丸太を切ったり、金づちで釘を打ったり、色を塗ったりという作業なのですが、小学生の子も幼児も皆、真剣な表情で道具を使って工作をしていました。ここで印象に残るのは子供たちの真剣な眼差しです、作った弓矢で射る時や、バウムクーヘン作りでも竹を芯にして周りにホットケーキミックス

をかけて回しながら焼いて層を重ねていくのですが、焦って回すと崩れ落ちてしまうため、おやじメンバーの指導に従って、どの子も慎重に回しています。目的を成し遂げたから真剣になっている姿があり、やりたい事に没頭する楽しさを自然に体験したと思います。

お昼の時間は持参のお弁当に加え、PTCAのお母さんたちから心身ともに温まる、けんちん汁のサービスがあり、子供たちが焼いたバウムクーヘンも少しずつですが分けて食べました。いつもと違った野外で、お友達とのランチは格別だったと思います。午後は遊びの続き、元気いっぱい14時半まで遊び、終礼では皆で「なな山緑地の会の皆様、有難うございました！」と元気なお礼もでき、恒例の集合写真を撮って帰路につきました。

「まだ遊び足りない！」という子供が続出でしたので、普段なかなか体験できないから楽しいのだな、と思いつつも自然に囲まれた中で遊ぶ事が希少になってきている事も少し考えてしまいます。

高木会長は自然の中で遊ぶ楽しさをターザンロープ子供たちに知ってもらえれば、いじめ等の軽減に繋がる部分があるはずという思いを持っておられ、こうした思いが子供たちへのなな山開放の継続になっていると思いき、有り難く思いました。当日も多くの緑地の会のメンバーの方が、子供たちをリード、サポートして下さいました。またその前の週も相田さんを始め、多くの方にブランコ等の準備をして頂きました。何よりも年間を通じて、なな山の安全の維持活動のおかげで、このような楽しいイベントが10年以上も続いているのだと思います。子供たちがそのような自然の中で、また大人たちの想いの中で遊んだ体験はずっと心に残る事を信じています。なな山緑地の会の皆様、有難うございました。



全員集合

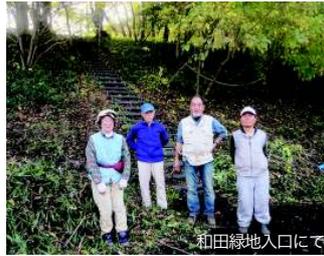
バウムクーヘンを焼いています

木工遊び

「和田緑地」誕生

大井 幸夫

なな山緑地の“弟分”「和田緑地」がこの春、オープンした。「和田緑地？なんだ、それ？」とお思い



の方も多いことだろう。そもそも、なな山緑地の正式名称が「和田緑地保全の森」というのだから。

なな山緑地の前を通って野猿街道に至る中和田通りに沿って、丘陵が帯状に伸びている。多摩市の「みどりの拠点」のひとつ、「日野市境周辺拠点」である。北西側の頂点がなな山であり、南東側の終点が「和田緑地」である。衛星画像で見ると、周辺の開発が進む中、このグリーンベルトがいかに貴重かよくわかる。

野猿街道の中和田バス停付近から北へ入ったあたりに和田緑地はある。3,188 m²と、なな山の「中の山」のほぼ半分の広さ。約40段の階段を上ると、台地状の頂上部に樹齢40~50年のコナラ、クヌギ、ヤマザクラを中心とした落葉広葉樹林が広がっており、地表はアズマネザサが覆っている。典型的な里山の風景だ。

平成24年に市が買収。緑地化に当たり、市は近隣住民との協働による維持保全を希望している。地元住民が参加して、新たな組織「和田緑地の会（仮称）」を立ち上げなければならないが、まだメンバーは数名の状態だ。

維持保全といっても、除草だけならともかく、間伐、散策路の整備、樹木の名称板設置など、気持ちのいい緑地にするためには、当初は月一程度の作業が必要になるかもしれない。刈払機やチェーンソーはもちろん、鎌、熊手、竹ぼうきなど基礎的な資器材もゼロ。ヒト、モノ、ノウハウなどすべての面でなな山のサポートがないと成り立たない状況だ。11月下旬、なな山から延べ9人が参加、活動始めとなる除草作業を行った。草や落ち葉などは現地処理が原則なので、12月には集積所を設置した。新組織はグリーンボランティア森木会の新たなメンバーとなる。ヨチヨチ歩きの和田緑地が独り立ちするまで、なな山の皆さんの協力をお願いします。

和田緑地の位置



名前のはなし

永田 美夫

特に植物に興味があるわけでもないし、土いじりが好きなわけでもない。鉢植えのサボテンすら枯らしてしまうくらい、草花との相性が悪い私がなな山のメンバーとなって、すでに4年が経った。それでも相田さんはじめオーソリティーの薫陶？よろしきを得て、いくつかの草花の名前は覚えた。実はコトバにはうるさいほうである。若者（時々若いとは言えない人もいる）たちが「すごいうれしい」などとしゃべっているのを聴くとイライラするし、いつぞやはTVで中学校の教頭先生が「フィンキ」（雰囲気のこと）と大真面目に連発しておられるのを目にして、TV局に電話を掛けなくなった。

だから家の周りや散歩途中の路傍で見かけた草花の名前がわからないと、胸のどこやらがムズ痒くなり、中原さんにメールして名前を尋ねたりする。

この地球上には数十万種もの植物があるらしいが、そのすべてに名前がついているというのは、名前がわからないと胸の座りが悪い、私のような人間が世間には沢山いるということなのだろう。

だが、つけられた側にとっては心外な名前も時にはある。

オオイヌノフグリ・ヘクソカズラ・ママコノシリヌグイ・ワルナスビ。あんまりだと思ふ人も昔からいたらしく、それぞれに別名もあるのが、そちらのほうは定着していないようだ。いま挙げた4種ともに、派手でこそないがそれなりに美しい花をつける。オオイヌノフグリには「星の腫」という別名もあるくらいだ。

綺麗なバラには棘があるというが、茎どころか葉の裏側にまで鋭い棘をもつ（根性）ワルナスビの花のほうが、どこか厚化粧な感じのするバラの花よりも私は好きなのだ。

ヒュー・ロフティングのドリトル先生シリーズ・『ドリトル先生 月へ行く』の巻にドリトル先生が月世界の花と言葉を交わすくだりがある。また、植物にも感情があるらしいという研究結果を耳にしたこともある。

視点をちょっと変えて、なな山の鳥獣草木たちが、ヒトの知らない方法で会話を交わしているとすれば・・・我々一人一人に名前をつけて噂話をしているとすれば・・・私なんぞはどんな名前と呼ばれているのだろうか？想像すると、楽しいような、怖いような気がしてくる。



ママコノシリヌグイ

なな山日記 (活動・観察記録)

<p>No.275 2015年8月30日(日) 小雨/雨 気温22℃ 参加者12人 小雨がしだいに本降りとなり、午前中で活動中止となった。 ● 作業/西の山と広場の草刈り。テーブルの脚補強。スイカの蔓片付け。ダイコン種まき。耕耘機をかける。 ● 観察/なな山の看板にきのこが生えていた。蜂トラップには数匹のスズメバチが入る。</p> 	<p>No.276 2015年9月13日(日) 曇り 気温24℃ 参加者17人 久しぶりに雨の降らない日曜日。ススキに秋を感じる。 ● 作業/刈払機の整備。西側法面と広場の草刈り。刈草の整理。観察園の草取り。粗朶置場の整理。 ● 観察/アオツツラフジの実が垂れ下がっていた。クサギの実が花のよう。トキリマメ、ツリガネニンジンの花が咲いた。</p>
<p>No.277 2015年9月27日(日) 小雨/曇り 気温22℃ 参加者15人 蜂トラップにオオスズメバチが97匹入った。 ● 作業/西側法面、バス通り沿いの草刈り、清掃。刈払機の整備。ダイコンの間引き。 ● 観察/オケラ、シラヤマギクが咲いた。</p> 	<p>No.278 2015年10月18日(日) 曇り/晴れ 気温18℃ 参加者15人 樹木調査再開、アズマネザサをかき分けての作業。 ● 作業/住宅地の空地の草刈り。新テーブル設置。中の山の道づくり。ダイコンの間引き。 ● 観察/キチジョウソウが咲いた。コバノガマズミが赤い実を、ナツハゼが黒い実をつけていた。</p>
<p>No.279 2015年10月25日(日) 晴れ 気温22℃ 参加者15人 収穫した落花生を試食。 ● 作業/樹木調査。作業道の整備。西の山奥の草刈り。落花生の収穫。 ● 観察/緑地全域の観察。カシワバハグマ、ヤクシソウが咲いた。ヤブムラサキが紫色の実を、カラタチバナとマユミが赤い実をつけていた。</p>	<p>No.280 2015年11月15日(日) 曇り 気温18℃ 参加者11人 先週の振替え活動日。雨のため活動中止となったが、その後参加者が増え、正式な活動日となった。 ● 作業/チェーンソーの目立て、鎌の刃研ぎなど道具整備。東の山の道づくりと整備。サツマイモの収穫。耕耘機をかける。</p> 
<p>No.281 2015年11月22日(日) 曇り 気温16℃ 参加者23人 初級講座14期修了の新人会員4名が参加、頼もしい。 ● 作業/観察農園へ堆肥の運び込み。落葉囲いの作り替え。西の山の草刈り。東の山の通路際のアズマネザサを刈る。ナメコの収穫。23日のイベント用テント張り。 ● 観察/ヒイラギが咲いた。オオバギボウシが黒い種をはじき飛ばしそうになっていた。</p>	<p>No.282 2015年12月13日(日) 曇り/小雨 気温11℃ 参加者22人 青々とした葉付きのダイコンを、各自抜いて持ち帰る。 ● 作業/樹木調査。下草刈り。くず掃き。観察農園整備。 ● 観察/気温が高いためか、コナラやクヌギの葉が枝にたくさん残っている。全山紅葉。</p> 

なな山で行われたイベント

- 10月22日(木) 帝京大学附属小学校の課外授業
- 11月1日(日) 連絡会主催 めかい講座「なな山緑地でシノダケ採取とヘネヘギ作業」
- 11月7日(土) 多摩市民環境会議主催 環境学習セミナー「雑木林管理の手法」
- 11月17日(火)、27日(金) 多摩第二小学校なな山学習
- 11月23日(月) 雑木林保全の会イベント「里山の食」
- 12月6日(日) 多摩第二小おやじの会主催「なな山で遊ぼう! 2015」
- 12月8日(火) なな山めかいクラブ活動 多摩めかいの会と共同活動
- 12月20日(日) 東寺方小学校シノダケ採取
- 12月22日(火) なな山めかいクラブ活動

なな山だより 第36号 2016年1月10日発行

- 発行 かな山緑地の会
- 発行責任者 高木直樹
- 住所 多摩市和田1394-13
- ホームページ <http://www.geocities.jp/nanayamaryokuchi/>
- 編集委員 鎌田文雄 中原君代